2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社ミダックホールディングス　　上場取引所　東 名
コード番号　　6564　　ＵＲＬ　https://www.midac.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　執行役員　　（氏名）加藤　恵子
問合せ先責任者　（役職名）取締役　執行役員　経営企画部長　（氏名）高田　廣明　　ＴＥＬ　053-488-7173

半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	6,462	19.7	2,532	27.4	2,446	23.8	1,422	18.2
2026年３月期中間期	5,397	4.9	1,987	4.0	1,975	6.3	1,202	2.0

（注）包括利益　2027年３月期中間期　1,420百万円（18.0%）　2026年３月期中間期　1,203百万円（2.0%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	51.38	51.37
2026年３月期中間期	43.48	43.47

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	41,129	18,973	46.0
2026年３月期	39,412	18,022	45.6

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　18,923百万円　2026年３月期　17,976百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	18.00	18.00
2027年３月期	－	0.00			
2027年３月期（予想）			－	20.00	20.00

（注）　直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,494	13.9	5,489	16.2	5,268	13.3	3,340	15.6	120.67

（注） 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 （社名）有限会社エノケン工業

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ：無

② ①以外の会計方針の変更 ：無

③ 会計上の見積りの変更 ：無

④ 修正再表示 ：無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	27,773,500株	2026年３月期	27,773,500株
② 期末自己株式数	2027年３月期中間期	89,822株	2026年３月期	93,272株
③ 期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	27,679,332株	2026年３月期中間期	27,664,473株

※ 第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ２「１．当中間決算に関する定性的情報」、Ｐ３「（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 8

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が底堅く推移したほか、設備投資も堅調に推移するなど、緩やかな回復基調が続きました。一方で、米国のトランプ政権による関税政策や中東・ウクライナでの紛争など海外情勢の混迷、為替の変動や物価上昇の影響などにより、国内外の景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループはミダックグループ10年ビジョン『Challenge 80th』の実現に向けた第１次中期経営計画も最終年度となり、「成長加速のための基盤づくり」のため、当期も既存事業の収益力強化に努めております。

まずオーガニックグロースにおいては、管理型最終処分場「奥山の杜クリーンセンター」を中心とした廃棄物受託量の拡大に努め、既存取引先との取引量の拡大を中心に廃棄物受託量は増加しました。また、中間処理施設においても、既存取引先からの安定的な受託量の確保に加え、新規水処理施設である都田テクノプラントが2026年6月より一部稼働を開始しており、引き続き事業規模の拡大に取り組んでおります。

M&Aグロースについては、株式会社フレンドサニタリーにおけるスポット案件の獲得により、業績は堅調に推移しました。また、前第２四半期連結会計期間より業績に反映している大平興産株式会社においても、2025年11月から廃棄物の搬入を再開しており、新規案件の獲得も寄与し、搬入量としても徐々に拡大しております。

なお、有限会社エノケン工業は第１四半期連結会計期間末日（2026年６月30日）をみなし取得日としているため、当第２四半期連結会計期間から損益計算書に連結しております。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は6,462百万円(前年同期比19.7%増）、営業利益は2,532百万円（同27.4%増）、経常利益は2,446百万円(同23.8%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,422百万円(同18.2%増）と増収増益となっており、中間期の売上高、各利益においては過去最高を更新しました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、報告セグメントの区分方法を当中間連結会計期間より変更いたしました。この変更に伴い、前中間連結会計期間の数値を変更後の区分により比較算出しております。詳細については、後述の〈セグメント情報〉に記載しております。

① 廃棄物処分事業

最終処分場においては、前第２四半期連結会計期間より業績に反映している大平興産株式会社における搬入量の拡大と、旺盛な埋立需要を背景に各最終処分場における廃棄物受託量が増加しました。また、中間処理施設においても、既存取引先からの受託量は安定的に推移しました。以上の結果、売上高は5,517百万円(同22.2%増)となり、セグメント利益は2,924百万円(同23.5%増)となりました。

② 収集運搬事業

株式会社フレンドサニタリーについては、スポット案件が寄与したことで売上高・利益ともに好調に推移しました。株式会社ミダックライナーにおいては、飲食店を中心とした新規開拓に注力したことで前期並みの受託量を確保しました。以上の結果、売上高は861百万円（同10.4%増）となり、セグメント利益は269百万円（同36.0%増）となりました。

③ 仲介管理事業

既存取引先との取引拡大はありましたが、廃棄物処分の内製化によって協力会社への仲介が減少したほか、前年同期は大口案件があった影響もあり、外部顧客に対する売上は減少しました。また、人件費等のコストが増加しました。以上の結果、売上高は57百万円（同21.8%減）となり、セグメント利益は51百万円（同3.1%減）となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当中間連結会計期間末における流動資産は7,639百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,232百万円減少しました。これは主に、現金及び預金の減少額786百万円、受取手形及び売掛金の減少額143百万円等によるものであります。

また、固定資産は33,490百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,949百万円増加しました。これは主に、土地等有形固定資産の増加額1,941百万円、のれん等無形固定資産の増加額432百万円、投資有価証券等投資その他の資産の増加額575百万円によるものであります。

この結果、総資産は、41,129百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,717百万円増加しました。

（負債）

当中間連結会計期間末における流動負債は7,314百万円となり、前連結会計年度末に比べ904百万円増加しました。これは主に、短期借入金の増加額1,000百万円等によるものであります。

また、固定負債は14,841百万円となり、前連結会計年度末に比べ137百万円減少しました。これは主に、長期借入金の減少額525百万円等によるものであります。

この結果、負債合計は、22,156百万円となり、前連結会計年度末に比べ766百万円増加しました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は18,973百万円となり、前連結会計年度末に比べ951百万円増加しました。これは、親会社株主に帰属する中間純利益1,422百万円を計上したこと等による利益剰余金の増加額923百万円等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年５月15日付の「2026年３月期 決算短信」にて公表しました連結業績予想から修正はございません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,495,083	5,708,828
受取手形及び売掛金	1,303,733	1,159,767
棚卸資産	104,513	153,642
その他	985,687	634,249
貸倒引当金	△17,715	△17,262
流動資産合計	8,871,301	7,639,225
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,436,583	1,397,026
機械装置及び運搬具（純額）	837,359	1,104,772
最終処分場（純額）	9,805,950	9,904,456
土地	6,444,966	7,995,084
建設仮勘定	5,555,988	5,634,025
その他（純額）	132,667	119,937
有形固定資産合計	24,213,516	26,155,304
無形固定資産		
のれん	3,150,743	3,599,576
その他	297,818	281,204
無形固定資産合計	3,448,562	3,880,780
投資その他の資産		
投資有価証券	259,726	756,939
繰延税金資産	635,020	497,172
その他	1,983,922	2,200,044
投資その他の資産合計	2,878,669	3,454,156
固定資産合計	30,540,749	33,490,241
資産合計	39,412,051	41,129,466

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	64,348	46,666
短期借入金	2,500,000	3,500,000
１年内返済予定の長期借入金	1,052,068	1,052,028
１年内償還予定の社債	20,000	－
未払法人税等	956,426	865,491
未払金	1,230,793	1,201,134
賞与引当金	159,687	161,531
その他	427,133	487,697
流動負債合計	6,410,457	7,314,550
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	9,320,766	8,794,792
繰延税金負債	90,472	107,991
退職給付に係る負債	75,398	85,504
最終処分場維持管理引当金	4,412,624	4,765,389
特別修繕引当金	758,509	767,209
資産除去債務	112,606	112,623
その他	9,015	8,182
固定負債合計	14,979,392	14,841,691
負債合計	21,389,849	22,156,242
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	4,962,966	4,994,142
利益剰余金	13,005,218	13,929,192
自己株式	△83,769	△90,029
株主資本合計	17,974,415	18,923,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,047	△70
その他の包括利益累計額合計	2,047	△70
新株予約権	45,737	49,989
純資産合計	18,022,201	18,973,224
負債純資産合計	39,412,051	41,129,466

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	5,397,162	6,462,059
売上原価	2,127,707	2,579,958
売上総利益	3,269,454	3,882,101
販売費及び一般管理費	1,282,135	1,349,834
営業利益	1,987,319	2,532,266
営業外収益		
受取利息	6,118	6,023
固定資産売却益	46,959	9,184
不動産賃貸料	4,736	4,668
雑収入	6,323	18,707
その他	1,700	6,138
営業外収益合計	65,838	44,722
営業外費用		
支払利息	65,239	124,004
その他	12,429	6,901
営業外費用合計	77,669	130,905
経常利益	1,975,488	2,446,082
税金等調整前中間純利益	1,975,488	2,446,082
法人税等	772,631	1,023,865
中間純利益	1,202,857	1,422,217
親会社株主に帰属する中間純利益	1,202,857	1,422,217

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	1,202,857	1,422,217
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	714	△2,118
その他の包括利益合計	714	△2,118
中間包括利益	1,203,571	1,420,099
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,203,571	1,420,099

（３）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2026年６月26日開催の取締役会決議に基づき、同日付で取締役退任に伴う譲渡制限付株式報酬として自己株式16,956株を取得しました。また、2026年６月26日開催の取締役会決議に基づき、2026年７月24日付で譲渡制限付株式報酬として自己株式18,406株の処分を行いました。その結果、新株予約権の権利行使を含め、当中間連結会計期間において、自己株式が6,260千円減少しました。

以上の結果、当中間連結会計期間末における自己株式が90,029千円となっております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自2025年４月１日　至2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）３	調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	廃棄物処分	収集運搬	仲介管理	計			
売上高							
顧客との契約から生じる収益	4,513,888	780,004	74,148	5,368,041	29,121	－	5,397,162
外部顧客への売上高	4,513,888	780,004	74,148	5,368,041	29,121	－	5,397,162
セグメント間の内部売上高又は振替高	176,376	3,505	15,847	195,729	2,016	△197,746	－
計	4,690,264	783,509	89,996	5,563,771	31,137	△197,746	5,397,162
セグメント利益又はセグメント損失（△）	2,369,052	197,871	53,424	2,620,348	△28,196	△604,832	1,987,319

（注）１．セグメント利益又はセグメント損失（△）の調整額△604,832千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

２．セグメント利益又はセグメント損失（△）は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「廃棄物処分」セグメントにおいて、当中間連結会計期間において大平興産株式会社の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことから、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、2,562,109千円であります。

なお、のれんの金額は当中間連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自2026年４月１日　至2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）３	調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	廃棄物処分	収集運搬	仲介管理	計			
売上高							
顧客との契約から生じる収益	5,517,439	861,082	57,987	6,436,509	25,550	－	6,462,059
外部顧客への売上高	5,517,439	861,082	57,987	6,436,509	25,550	－	6,462,059
セグメント間の内部売上高又は振替高	167,284	3,337	47,088	217,710	1,213	△218,923	－
計	5,684,723	864,419	105,076	6,654,220	26,763	△218,923	6,462,059
セグメント利益又はセグメント損失（△）	2,924,841	269,204	51,791	3,245,837	△44,123	△669,446	2,532,266

（注）１．セグメント利益又はセグメント損失（△）の調整額△669,446千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

２．セグメント利益又はセグメント損失（△）は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「廃棄物処分」セグメントにおいて、当中間連結会計期間において有限会社エノケン工業の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことから、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、541,470千円であります。

なお、のれんの金額は当中間連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、業績管理区分の見直しに伴い、従来「収集運搬」セグメントに含めていた一部の事業を「廃棄物処分」セグメントに含める方法に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。